備　前　市　事　務　事　業　評　価　シ　ー　ト

（平成25年度事業）

事業の概要

事業開始年度	S４６～	根拠法令・例規等	
総合計画 大項目 基本目標	05 生活環境政策「快適・活力」	問合先 担当課（室）	まち営業課
総合計画 中項目 基本施策	07 地域の活力を生む産業を振興させるまち	職・氏名	観光係長　金藤 康樹
総合計画 小項目 施策	28 賑わいをもたらす観光の振興	電話	６４－１８３２（２７４）
事務事業名	08 かき海道浸透事業	このシート作成に要した時間	時間

Plan

事業の目的

対象（誰・何に対して）	観光客、市民
目的（何のために）	かきをメインにした観光・地域活性化事業を実施、支援することで市民融和及び観光客の動員を図る
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	イベント集客数の増加

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

Do

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
ひなせかき祭かき海道浸透事業補助等事業	ひなせかき祭実行委員会への祭の補助、実施。備前ブランドである「かき」の全国へのPR等。	○

事業費等

決算額

		単位	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績
事業費	直接事業費	千円	560	560	560
事業費	必要人員	人	0.33人	0.17人	0.11人
事業費	必要人件費	千円	2,595	1,363	1,104
事業費	事業費計	千円	3,155	1,923	1,664
財源	国県支出金	千円			
財源	受益者負担	千円			
財源	繰入金	千円			
財源	市債	千円			
財源	その他（　）	千円			
財源	一般財源	千円	3,155	1,923	1,664
受益者負担比率		%	－	－	－

結果指標

結果指標

結果指標名	単位	平成23年度実績	平成24年度実績	平成25年度実績
説明		かき祭り来場者数		
結果指標量	人	50,000	50,000	60,000
対前年比	%		100.0%	120.0%
活動コスト	円	3,155,000	1,923,000	1,664,000
単位当たりコスト	円	63	38	28

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度目標値
イベント集客数	目標値（A）	42,000	42,000	45000	45000
	実績値（B）	50,000	50000	60000	到達目標値
	達成率（B/A）	119.05%	119.05%	133.33%	毎年度

成果指標設定の考え方・式や説明

イベント（かき祭り）の集客数により、PR効果を推測する。

Check

事務事業の評価

該当する項目を□から■へ　＜　■ ←「コピー」して「貼り付け」してください ＞

妥当性の評価（市の関与の妥当性必要性／市民ニーズ）

妥当性評価：C（A高い／B やや高い／C 普通／D やや低い／E 低い）

- □ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- □ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- □ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- □ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- □ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ■ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- □ 事業開始当初の目的から変化してきている
- □ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- ■ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- □ 市民・団体等から要望・要請が強い

効率性の評価（コスト手段）

効率性評価：C（A高い／B やや高い／C 普通／D やや低い／E 低い）

- ■ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- □ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- □ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ■ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- □ 受益者負担率は適正である
- □ 受益者負担率を見直す余地がある
- □ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- □ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ■ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

有効性の評価（目的達成度／市民参画度）

有効性評価：C（A高い／B やや高い／C 普通／D やや低い／E 低い）

- □ 成果指標の設定は適切である
- □ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- □ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- □ 成果指標達成率は80%未満となっている
- □ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- □ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ■ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- ■ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しな

進行年度（H26年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
	○						

説明：「日生カキオコ」B-1出展効果もあり全国的にひなせのカキの知名度も上がっているが、今年度オーブン予定のアンテナショップ等を活用し、さらに、ＰＲをする必要がある。

総合評価

経費節減の中ではあるが、漁協等関係団体と連携を取りながら、有効なＰＲにより知名度アップを図っていく。

総合評価：C（A高い／B やや高い／C 普通／D やや低い／E 低い）

Action

平成26年度の方向性・取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
	○						

取組目標：今年度発足のブランド推進係と連携し、カキの産地として備前ブランドの推進を図る。また、特産品の「カキ」、「カキオコ」のご当地グルメを通じてさらに全国ＰＲを図る。